



私の坪田譲治研究覚書

— 博士卒論を終えて —

劉 迎

私が初めて坪田譲治の作品に接したのは一九九四年でした。その時私が師事する中国児童文学研究者蔣風先生に勧められ、『日本児童文学史』の中の一章「坪田譲治の児童文学創作」を書くために、北京図書館で坪田譲治の著作を数多く読み通していました。自然あふれる故郷の風土を背景に、素朴で天真爛漫な子どもたちの姿を描きながら優しくやさしい心をつむぎだす譲治メルヘンに心を打たれ「もっと理解を深めよう」「中国の子どもたちに伝えたい」と決心して、一九九六年九月、十二年間も務めていた大学の教職をやめて私費留学生として笈を負って東渡し、譲治ゆかりの地である岡山に来ました。

坪田譲治は小川未明・濱田広介とともに近代児童文学の御三家と言われ、日本児童文学史上に揺るぎない位置を確立した児童作家であります。戦後になってそれまでの伝統を否定し新童話創出を目指す現代児童文学運動が起こると、これら御三家の文学は厳しく批判されるようになりまし。それ以来五十年、坪田譲治没後まもなく二十周年を迎えようとする今日、宮沢賢治・新美南吉ブームが高まる中、批判的とされてきた御三家のほうに憧憬たる状況を呈し、児童文学の理論界からは完全に閑却されてしまっており、いわばその光彩が消えつつあるといっても過言ではありません。

坪田文学の研究について言えば、研究書や論文はごくわずかしかなく、しかも「お化けの世界」「風の中の子ども」などの代表作のみを対象とし、彼がデビューした昭和十年以降の作品評は割合に多く

なされているのに対して、草創期にあたる大正期・昭和初期(昭和十年以前)の坪田文学に目を向けたものは意外に少ないと思います。故に、私は修士課程を経て博士課程も、この方面の研究に着目し、従来の研究ではほとんど論じられてこなかった問題点を取り上げ、坪田文学の成立に直結した諸要因及び思想的源流の解明について、できるだけ多くの新資料を織り込み、最大限の努力を尽くして追究してきました。博士学位論文の作成において、故谷口澄夫理事長のご厚意で福武文化振興財団から文化関係助成金を二年連続いただいたおかげで、私の研究を順調に進めることができました。唯一の外国人としての坪田文学研究論文を誇りに思っています。心から御礼申し上げます。

このような視点から、中国の子どもたちへの譲治メルヘン発信など坪田文学の国際化と、市民全体の参加による地域文化の振興につながる坪田文学の再評価とが至急の課題だろうと私は思います。今後同じ感謝の気持ちで、坪田譲治文学の研究と中国語訳に取り組み、一生懸命に頑張っていきたいと思っています。

出版案内

平成十三年度

福武教育振興財団と同文化振興財団は十三年度に次のような冊子を出版し、関係機関に送っている。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

- 『教育』要覧(七月)、
『表彰・助成の記録』(七月)、
『教育研究叢書』(十一月)、
『年報』(三月)
『文化』要覧(七月)、
『表彰・助成の記録』(六月)、
『文化関係助成成果報告書』(九月)、
『年報』(三月)
『機関誌』不 易(九月、四月)、第十号(九月)、第十一号(一月)

今後の行事予定

- 教育関係助成募集 五月八日まで
文化贈呈式 七月一日
教育贈呈式 七月十九日
英語教員研修 七月下旬、文化発表会 九月二十日

編集後記

昨年十二月には文化芸術振興基本法が施行され、続いて文化審議会が中間まとめを文部科学相に提出した。一方教育の面では、本年度から新しい学習指導要領のもとに学校週五日制が始まる。私たちの生活を真に豊かにするためには教育と文化は極めて重要である。今年度はこの意味で大きな節目の年である。

当財団は、昨年度の文化関係助成の見直しに引き続き、今年度は教育に関する諸事業について見直す計画である。各方面からのご指導をお願いする次第である。(武)

不 易

がんばってます！

寄島町立寄島中学校

土屋 新太郎 先生

— 自然に学ぶ授業づくり —

岡山県南西部に位置する寄島町。ここにたくさん自然に覆われた「三郎島」と呼ばれる大きな島があります。この三郎島をフィールドに、理科の選択授業を展開されている土屋先生を訪ねました。

始めは「地元なのに、この島を知らない子どもが多かった」とおっしゃる土屋先生。調査の日は、中学校からそう遠くない島まで自転車で移動。図鑑とデジタルカメラを携え、磯の生物を調べるグループ、島の成りたちを調べるグループに分かれ、それぞれが課題を持って取り組みます。



三郎島でのフィールド学習 今日どんな発見があるのだろうか

第12号 平成14年4月1日
(財)福武教育振興財団
(財)福武文化振興財団
〒700-0807
岡山市南方3-7-17
TEL.086-221-5254
FAX.086-232-3190
http://www.fukutake.or.jp/
印刷(株)シンプレス

潮の干満によって島の表情が違ふこと、見えてくる地層が違ふこと、波の侵食や風化によって岩石の形が変わること。実際に触れることにより子どもたちが感じる自然の力は心を揺さぶるもので、教科書から味わうことはできません。不思議に思ったことや疑問点はインターネット等で調べます。そこでまた新たな発見をするので深い理解を得、より発展的な段階へ結び付けることができるという、学習活動において大変良い循環が起きているように思いました。
現在、調査はほとんど終わり、生物の分布マップや島の立体、平面マップの作成を行うといったまとめの作業に入っていました。パソコンを使い、取り込んだ画像をうまく配置し、説明文を加える

「自分の活動がだれかの役に立ち、それが自分の生きがいや自己実現につながることに何よりの喜びです。」静かに語るお言葉から、会長青山さんの熱い思いが感じられました。(樫本)
岡山要約筆記クラブの活動への参加、要約筆記の派遣をご希望の方は左記までご連絡ください。(青山さん宅)
TEL(〇八六)三三一五六六六 FAX(〇八六)三三一五七六六



専門家を招いての「日本語」の研修会

### 福武教育振興財団 平成十四年度 事業計画と主な変更点

本年度は新しい学習指導要領が全面実施になる。この節目の年に当財団は左の表のよ  
うな事業を行い、岡山県の教育振興の一端を担いたいと考えている。

#### 【変更点】

##### 一 募集期間

これまででは四月一日から四月末日までであったが、今年度からゴールデンウィーク明けの五月八日まで延長した。

##### 二 図書助成

これまで助成金の使途を「図書等の購入に限る」としていたが、学習に関連したソフト教材の購入も含むことになった。

##### 三 英語教員研修助成

対象の条件として「教職経

#### 1 表彰関係事業

- (1) 福武哲彦教育賞
- (2) 福武教育奨励賞

#### 2 助成関係事業

- (1) 教育研究助成
- (2) 図書助成
- (3) 教育研究大会等助成
- (4) 英語教員研修助成
- (5) 指定研究助成
- (6) 特定教育事業助成

#### 3 調査研究事業

- (1) 海外教育事情調査
- (2) 県内教育事情調査

#### 4 広報・啓発事業

- (教育・文化講演会、教育研究発表会等)

#### 5 調査・報告書等の発刊

- (要覧、表彰・助成の記録、教育研究叢書、海外教育事情調査報告書、年報等)

### 福武文化振興財団 平成十四年度 事業計画

#### 表彰事業

##### 一 福武文化賞

県内の文化向上に著しく貢献した個人・団体に贈ります。昨年度は漆芸家の山口松太氏と(株)くらしきコンサートが受賞されました。

##### 二 福武文化奨励賞

県内の文化向上に著しい貢献が期待される個人・団体に贈ります。昨年度は親世流藤々会と児童文学作家のあさのあつこ氏が受賞されました。

##### 助成関係事業

##### 一 文化関係助成

文化の振興と地域の活性化に資するため、伝統的な文化、現代的な文化にかかわる活動や調査研究に対し助成します。

##### 二 指定文化財保全助成

国、県等指定文化財保全のための費用を助成するものです。



平成13年度 文化関係助成 贈呈式

### 渡り拍子・頭打ちの祭典

芸能フェスティバル

昨年度、岡山県郷土芸能振興会は、夏の「踊り」(盆踊り)に続いて、十一月四日「渡り拍子・頭打ち」と題した芸能フェスティバルを開催した。県内の六団体、延べ二百人近い出演者が、各地の秋祭りを彩る渡り拍子や頭打ちを、後楽園の芝生の上で披露した。秋晴れの好天に恵まれ、行楽客約千人が珍しい伝統芸能を楽しんだ。この催しには、無形民俗文化財を広く県民に知っていただくために、福武文化振興財団が毎年助成をしている。(武)



備中町(備前)の八幡神社の渡り拍子



### 論語百章

岡山県生涯学習センター

所長 森崎岩之助

青少年をめぐる近年の状況は、相変わらず、いじめ、校内暴力、不登校などの問題行動や凶悪・粗暴な少年非行が増加する一方、児童虐待を始めとする青少年を脅かす事件も多発している。

このような青少年の問題は、青少年自身の問題もさることながら、むしろ今日の大人社会のあり方、特に日本社会全体の基本的なルールの軽視、他人を思いやる心や公共心・責任感の欠如など、大人社会の問題を投影したものと

言うべきではないかと思う。また、子どもたちにとって教育の出发点であり、最も重要な生活の場である家庭は、

絆の切れたホテル家族と言われる有様であったり、地域は人間関係が希薄になって、学校や塾と家をつなぐ単なる通路でしかなくなる等、青年の規範意識や社会性の発達を妨げる要因も増加している。

このような社会状況下で、学校教育は、完全週五日制となり、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、「生きる力」の育成を目指して本年四月、新学習指導要領が実施され、大きく変わることにしている。

特に道德教育では、心に響く体験活動を家庭や地域の人々の協力を得て、子どもが自らの課題として共に考える学習活動を目指すことにな

る。さて、儒教文化圏にあった我が国も、戦後の個人主義を基本とする西洋化の中で、儒教は封建的、家長制の理論である等の批判を受け、儒教文化で培われ、わが国の優れた伝統であった家族愛、社会規範重視など「不易」の部分

まで軽視されてきた。

本県には、儒学を教学精神とする閑谷学校がある。その歴史と伝統を受け継ぐ、岡山県立和気閑谷高等学校は私の母校である。

先年、創学三百二十年を記念し、長い伝統を生かした特色づくりを進め、新しい時代に飛ばたく人間教育を目指し、約五百章と言われる論語の中から、時代を超えてこれからの社会に生かす百章を選び、副読本「論語百章」を編纂した。

子曰、志於道、拠於徳、依於仁、游於藝。」「子曰、仁遠乎哉、我欲仁、斯仁至矣。」等の各章を順次朗唱する母校の生徒の声は、力強く頼もしい。

わが国の精神的よりどころとなった儒教、中でも倫理道徳としての論語など、先輩たちが学んだ足跡を振り返り、家族と共に噛みしめて、これからの道德教育の在り方を考えてみるのも、意義あることではないかと思うのである。(福武教育振興財団 理事)

#### 第十六回教育・文化講演会

### 「21世紀の教育を考える」

就実女子大学・就実短期大学

学長 柴田一先生

二月十六日、ベネッセコーポレーション大ホール満座の聴衆は、柴田先生の熱のこもった講演に魅了されました。

二十一世紀の教育を考えるにはまず温故知新、先人の知恵を学ぶことから始めるのが大切。人は幸せになるために努力するが、神様はまず幸せになれ、そうすればいくらでも努力できる、と言われる。今不幸と思っていることが長い目で見ると実は幸せなのだと分かることが多い。

教師は権威を持たねばならない。また、子どもの良い所を上手に育てるのが仕事だ。



講演中の柴田一就実女子大学学長

初任の若い若い体育教師が着任最初の授業で鉄棒の大車輪を見事に決めて生徒の心をつらえた話。

けんかを生き甲斐にしていた中学生に、リングの外であれば罪になるが、リングの中でやれば金になると、後のボクシング世界チャンピオンを育てるきっかけを作った教師の話。

教育は抑制と育成の両面が大事、また、不完全主義の教育が必要だ、と説かれた。

父と一緒に麦踏で、なぜ踏みつぶすの?と聞いたとき、暖かくて徒長すると穂がつかたとき倒れてしまつから、と父に教えられた話。

天才バカボンの親父は実に立派。何かあっても言つことは一つ、「それでいいのだ」と。

歴史学者として古人から学び取った教育観を基に、ご自身の体験を通して身につけられた教育の在り方を、数多くの実例をまじえ生き生きと話され、迫力のある感銘深い講演で、あつという間の二時間であった。(須賀)